

6月の水稻栽培管理

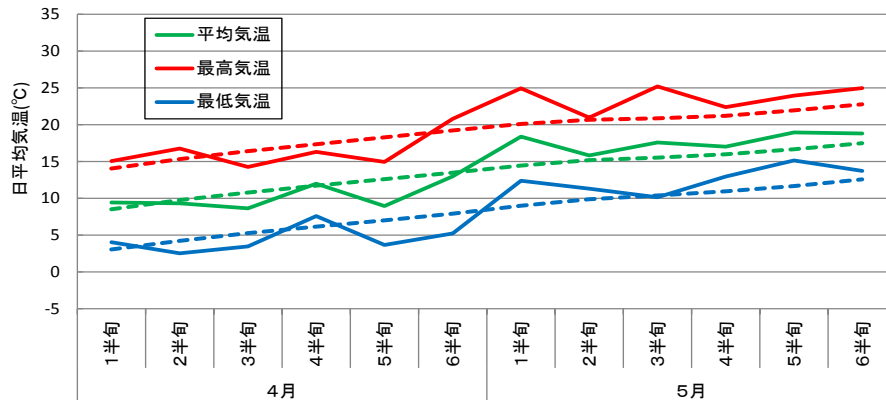
甲賀農業協同組合

甲賀農業農村振興事務所農産普及課

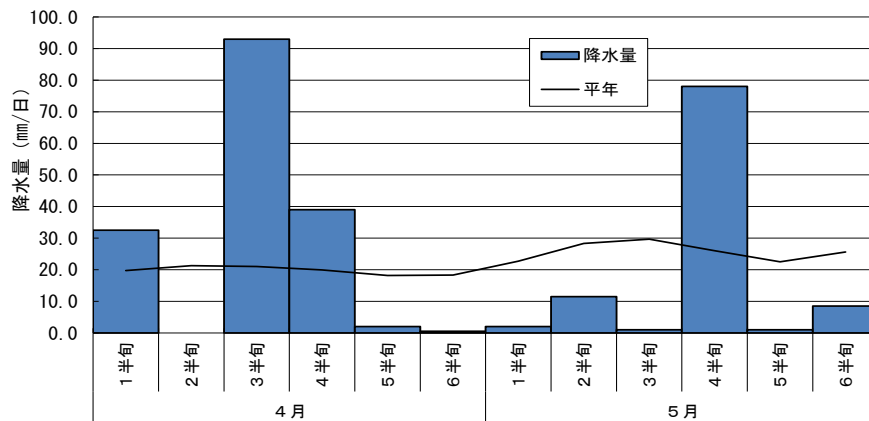
1. 現在までの天候と生育経過

(1) 気象の経過

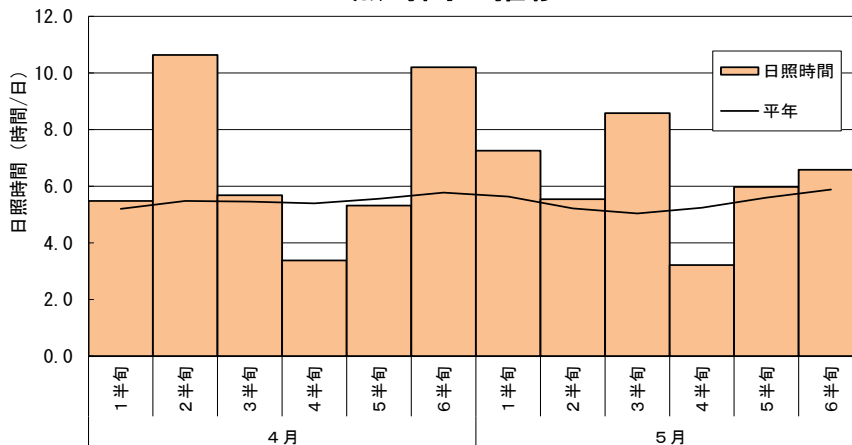
気温の推移 ※ただし、6半旬ごとの平均値



降水量の推移 ※ただし、6半旬ごとの値



日照時間の推移 ※ただし、6半旬ごとの平均値



注) 半旬:5日間を示し、毎月1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬・・・といいます。
月・半旬の「4・1」とは4月 1～5日、「5・3」とは5月 11～15日を示します。

(2) 生育の概要

昨年度に比べ育苗期の4月、特に下旬が低温で、苗の生育はやや遅れ気味でした。

4月下旬の移植では、強冷風による植痛みが一部みられましたが、5月に入ってから移植では、好天により比較的活着は良好で、以後は植痛みはほとんどなく、生育は順調でした。

5月中旬以降の高温により早くから還元障害が発生しているほ場や藻類の発生が多いほ場が散見されています。

2. これからの管理について

(1) 水管理

水をたっぷり張ったほ場では、還元障害(稲ワラの分解等)で発生したガスによってイネの根が傷み、株張りが悪くなっている場合があります。このようなほ場では根傷みを防ぐため、自然減水で一度軽く(2~3日程度)干しましょう。また、藻の発生が多い田んぼも、田面を干してみましょう。

過剰分けつによる籾数の取りすぎは、玄米品質の低下につながります。早期にしっかりと「中干し」を実施し、スッキリとした稲作りをしましょう(※下記)。

《中干し》

☆中干しの効果

- ・田面が堅くなり、収穫期の落水を適期に実施できる。 → 胴割れ防止、粒厚確保
- ・一旦乾かすと、土中の窒素分が発現し、追肥と同様の効果が得られる。
- ・根腐れを防止し、その後の生育が良好となる。

- 開始時期は、茎数が目標穂数80%程度の時期：坪60株植で、コシヒカリ・みずかがみ 16本程度、キヌヒカリ・日本晴・ゆめおうみ 18本程度に茎数が確保できれば行います。
- 開始の目安：5月上旬植で6月上旬～、5月中旬植で6月中旬～
- 晴天が続く場合、適宜、差し水をしてください。
- 中干しの程度は、軽くひび割れ、長靴ではほ場が歩ける(白乾させない)程度です。
- 環境直接支払の「長期中干し」は、連続して2週間以上、溝の間隔は 10mあたり1本以上となります。

※水稲栽培の中干し開始時期調査についての調査結果(全県)から、中干しの目安より「7日以上遅れている場合」が 70%位あることが判りました。

- 中干の適期実施が必要です。今一度、実施時期を見直してください。

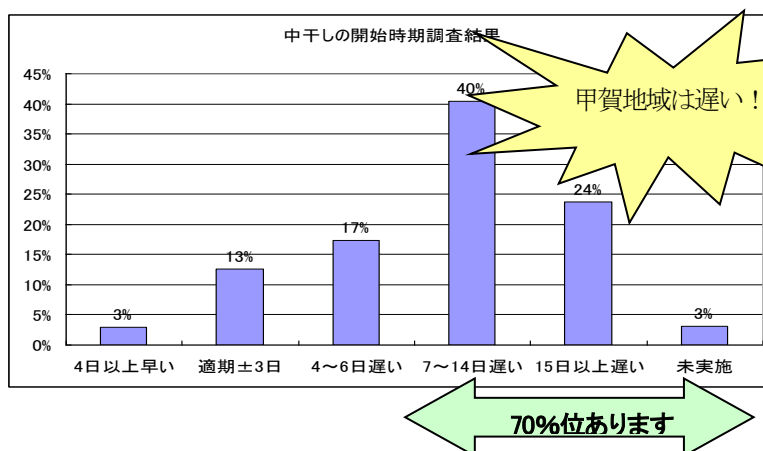
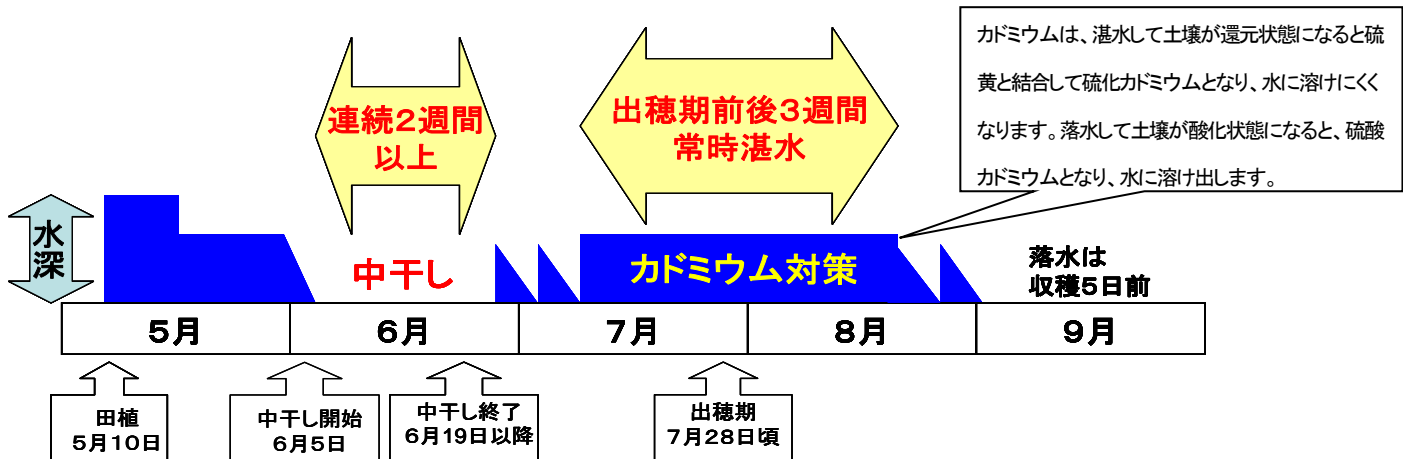


図 田植から収穫までの水管理イメージ(コシヒカリ5月10日植の目安)



(2) 追肥 (「みずかがみ」の追肥は不要です)

- 施肥田植機での基肥施肥、緩効性(一発型)肥料(こうのう有機L、いち太郎90あお、いち太郎130あお など)では、追肥は不要です。
- 「JA特別栽培米(コシヒカリ、キヌヒカリ、みずかがみ)」や「環境こだわり米」の場合、肥料の種類と散布量に制限があるので、生産計画などを確認し施用してください。

《施用時期の目安》 (5月上旬(コシヒカリ・キヌヒカリは5月10日頃)田植えの場合)

- **コシヒカリ・キヌヒカリ** (施用基準日は6月5日)
6月始めの茎数が、
 - 10本/株以下 すぐ施用
 - 10～18本 基準日頃(6月5日頃)に施用
 - 18本以上 時期を遅らせる(基準日より2～3日後)
- **日本晴** (施用基準日は6月20日)
6月15日頃の茎数が、
 - 15本/株以下 すぐ施用
 - 20本前後 基準日頃(6月20日頃)に施用
 - 25本以上 時期を遅らせる(基準日より2～3日後)

《施肥基準量》

品 種	肥 料 名	施 用 量(kg/10a)
コシヒカリ	こうのう有機ゆめ80 (窒素9%)	10kg (粘質田は5kg)
キヌヒカリ		20kg (粘質田は10kg)
日本晴		

- 粘土質地帯では、追肥の施用時期を5日程度早めてください。
- 施肥量は、田んぼの土質・条件を考慮して調整してください。

(3) 病害虫防除

《いもち病対策》

例年梅雨入り梅雨明けの時期が不安定になっております。梅雨明けが遅く、遅くまで低温が続く年は、いもち病の発生が多くなる傾向にありますので、発生状況に合わせて防除をお願いします。

稲体を硬くすることでいもち病にかかりにくくなります。ケイ酸質資材「ケイ酸加里プレミア 34」の施用が効果的とされていますので、ご検討ください。

《令和2年5月19日付け「病害虫発生予報第3号」から》

葉いもち 発生時期：平年並、発生量：平年並

- ・ 置き苗(余剰苗)が残っていたら直ちに除去してください。
- ・ 田植時にスタウトダントツ箱粒剤を施用した場合は、葉いもち防除の必要性は低いです。
- ・ 常発地(中山間地、多肥田や晩植田)では、今後の発病状況に気をつけましょう。

ニカメイガ第1世代 発生時期：平年並、発生量：やや少

- ・ 例年発生が多い地域では、被害の発生に気をつけましょう。
- ・ 今年度の防除適期は5月末～6月初旬頃の見込みです。

イネミズゾウムシ 発生時期：平年並、発生量：平年並

- ・ 根腐れを生じやすい場合は幼虫の被害が出やすいので、深水を避け、適正な水管理で根を健全に保ちましょう。
- ・ 田植え時にスタウトダントツ箱粒剤を施用した場合は、防除する必要性は低い。

病害虫防除に関する情報

滋賀県病害虫防除所

病害虫の発生予察などの関連情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

滋賀県農作物病害虫雑草防除基準

滋賀県における病害虫や雑草の適切なかつ安全な防除および危被害防止についての基準

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/noyakuhiryo.html>

(4) 除草 (5月の高温により、雑草の生育も早まっていますので注意ください。)

- ヒエが多いときは、クリンチャー1キロ粒剤(ノビエ4葉期まで)などを散布します。
水深は3～5cm程度の浅水で散布します。
- 広葉雑草(ホタルイ、コナギなど)が多いときは、バサグラン粒剤または液剤を落水散布します。

※「JA特別栽培米」では、クリンチャーは使用できますが、バサグランは使用できません。

※その他の「環境こだわり米」も、農薬成分数(7成分)を超えないよう注意してください。

※農薬の散布時には、登録内容をラベルなどでしっかり確認し、使用基準を必ず守りましょう。

※「JA特別栽培米」では、指定農薬以外での追加防除はできません。

「環境こだわり米」では、農薬成分数(7成分)を超えないよう注意してください。